

令和7年の仕事始め式が6日（月）、3109M講義室であり、あいさつに立った木下統晴理事長が、新しい年を展望しました。あいさつ要旨は次の通り。（NL編集部）

「総合力高め 新たなチャレンジを」

令和7年仕事始め式 木下理事長あいさつ（要旨）

「保健医療系大学として、わが国のリーディング大学の一つとなる」。本学のビジョンです。そこでは、「総合力」「100%」「High Quality University」という要素が求められます。

総合力がなければ勝てません。また、就職率100%の維持と共に国家試験での全員合格を目指し、それを恒常的なものとしていかなくはなりません。そのためには、今までの発想を変えていくべきです。「品質」とともに「充実」の意味を持つHigh Qualityな活動も必要になってきます。

こうした要素を踏まえた改善の積み重ねが目指すのは、「治療・予防・企業・研究機関・地域・グローバル社会で活躍する人たちを育てる」ということ。すなわち、優れた医療人の輩出です。そのためには、優れた入学者を確保する一方、優れた教育・研究システ

ム構築に向けた改善活動、国家試験合格率100%の達成、DX（デジタルトランスフォーメーション）による業務改善などに取り組まなくてはなりません。

日本の高齢人口は、2024年9月の3625万人から2050年には3764万人に達するなど、継続して増加します。これは本学にとってチャンスであると考えられます。それは、社会が求める健康寿命延伸に向けた保健科学の需要が高まるからです。今後は、本学が「総合力」を高め、High Qualityを保ちつつ、地域と未来を見据えた連携、財務基盤の強化、継続的な改善等への取り組みが重要です。

事務部門の若手スタッフが「未来創造チーム」を立ち上げました。各学科では新たな取り組みも始まっています。具体的なビジョンを描きながらチャレンジし、KUMAHO PRIDEで正念場を乗り切りましょう。

竹屋学長「連携協定が様々に結実」 令和6年仕事納め式

令和6年の仕事納め式が12月26日（木）、50周年記念館で行われ、竹屋元裕学長がこの1年を総括し、新年に向けた抱負を語りました。あいさつ要旨は次の通り。（NL編集部）

◇

◇

この1年は「新しい方向性が見えてきた1年」だったと思います。昨年度までに締結した多くの連携協定が様々な形で実を結びつつあります。

健康スポーツ関係では、熊本ヴォルターズ、熊本ビューストピンディーズ、鶴屋女子バスケットボールチーム等との連携活動、県内外の高校生アスリートへの支援も順調です。地域との連携活動でも、阿蘇市での住民の健康増進活動が成果を挙げ、水上村でのメンズシェッドや子育て支援も順調です。さらに、福岡脳神経外科病院との連携で、認定看護師教育において、脳卒中看護学と認知症看護学の同時開講が可能と

なりました。また、次年度からの公衆衛生看護学の専攻科設置も認可されました。

来年4月に施行される私立学校法の改正に向けて、本学の寄附行為の変更や理事会、評議員会のメンバー構成の変更についても、新しい方向性が確認できました。

このように今年の本学のパフォーマンスは概ね順調だったと思いますが、少子化と高齢化という社会環境に対して、今後とも適切に対応していくことが必要です。10年後も20年後も選ばれる大学になるためには、さらに本学の認知度を上げてブランド力を向上させることが大切です。本学の長期ビジョンである「保健医療系大学として、我が国のリーディング大学となる」というビジョンに向けて一丸となって、着実に歩みを進めて行きたいと思っています。



新副学長に川口氏、学部長は多久島氏

令和7年4月からの副学長および学部長、研究科長がこのほど、決まりました。副学長には新たに川口辰哉研究科長が任命されました。

楢原真二副学長と古閑陽一特命副学長が再

任。3月で任期満了となる渡辺雄一学部長の後任には多久島寛孝看護学科長、川口研究科長の後任には前田ひとみ特任教授（保健科学研究科）が就きます。

任期はいずれも4月1日から2年間です。

多彩な研究テーマ 高校生に助言、指導

県立高校一堂に会して「学びの祭典」

熊本県の県立高校全50校が日ごろの学びの成果を発表する「学びの祭典」が12月21日（土）、益城町のグランメッセ熊本で開催され、本学も熊本サイエンスコンソーシアム（事務局：第二高校）の連携大学として参加しました。

会場内には、地域復興、健康増進、定員割れ回避など、様々なテーマのパネルがところ狭しと並べられ、大盛況。パネル前やステージで発表に立つ高校生は、研究の趣旨や苦労したこと、やりがいを感じたことなどを説明し、中には英語で発表する生徒も。医学検査学科の安楽教授と、理学療法学専攻の田中准教授がステージ発表の評価委員として助言・指導をしました。

近年の高校生は課題を設定する力、情報を収集・整理・分析する力、伝える力など、教科以外に多くの力を身につけていると感じています。また、通りすがりの人に臆せず声をかけて説明している姿を見ると、コミュニケーション力を備えていることもうかがえます。

時代の変化に合わせて高校生の学びも発展しています。この学ぶ意欲を継続できるような体制づくりも今後の大学に求められてくるものだと実感いたしました。この学びの祭典は今回で3回目、来年もこの時期に開催される予定です。

（入試・広報課）

芦北高校の生徒たちから説明を受ける
本学の木下理事長（右）



高校生に本学のPRをする入試・広報
課の職員

私の秘話



ヒストリー

共通教育センター

水本 豪教授

高大連携プログラムへのお誘い

去る12月21日（土）、グランメッセ熊本において「第3回 県立高校 学びの祭典」が開催されました。このイベントは、すべての県立高校が参加し、ステージ発表やパフォーマンス、ポスター発表といった形で日頃の探究活動や部活動の成果を発表するというものです。学校で作ったり開発したりした商品の販売もありました。

この日は、自身がかかわった水俣高校の発表があったこともあり、初めて参加したのですが、目を輝かせて発表する高校生の姿はとても眩しく、発表内容も多

様で、すっかり楽しんでしまいました。私は専ら「人文科学・社会科学」「地域課題」「健康・福祉・スポーツ科学」関連のポスター発表を見て回りましたが、魅力的な探究が多い中、「この内容だったらうちの先生に相談すればもっとよくできるのになあ」と感じた発表もありました。

私たちの大学が力を発揮できる場は、このような高校教育の場にもあるように感じます。高大連携プログラム、みなさんも一緒にいかがですか？



食事で体をメンテナンス

「こころとからだの健康づくり研修会」



教職員を前に講演する嶋田氏

衛生委員会による「こころとからだの健康づくり研修会」が12月24日（火）、50周年記念館で開かれ、日本赤十字社熊本健康管理センターの管理栄養士・嶋田けい氏が「今日からカエルからだがカワル～血管をサビつかせない食事メンテナンス～」と題して、教職員19人を前に講演を行いました。

嶋田氏は、体格に合わせた必要エネルギー量の求め方やバランスのとれた食事とはどういったものか、1日分の食事量について手のひらを使った“手ばかり”で簡単に確認ができることなどを説明しました。また、100キロを毎日食べすぎると1年間で脂肪が5キロも増えるということ、脂肪の模型を用いて説明しました。

参加者からは「健診結果が返ってきたばかりで、食生活を見直すいい機会だった」「クリスマスやお正月の暴飲暴食にも気を付けたい」などのコメントが寄せられました。（総務課）

銀杏アラカルト

■1年間の労をねぎらう 銀杏学園の忘年会が12月20日（金）、熊本市西区のザ・フォレストテラス熊本にて開催され、約140人の教職員が1年間の労をねぎらい懇談しました。竹屋元裕学長の乾杯で開会。その後は、新規入職者による出し物や、竹屋学長による圧巻の歌唱が次々と飛び出し、会は大いに盛り上がりを見せました。（NL編集部）



インフォメーション

週間行事予定（1月15日～1月21日）

1/16（木）	学内献血
1/18（土）～19（日）	大学入学共通テスト
1/21（火）	学部長表彰